浄土寺（尾道市）

正面の石段が参道で、その上に浄土寺の山門が見える

video

中国観音霊場第九番札所
国宝の寺
大本山 浄土寺

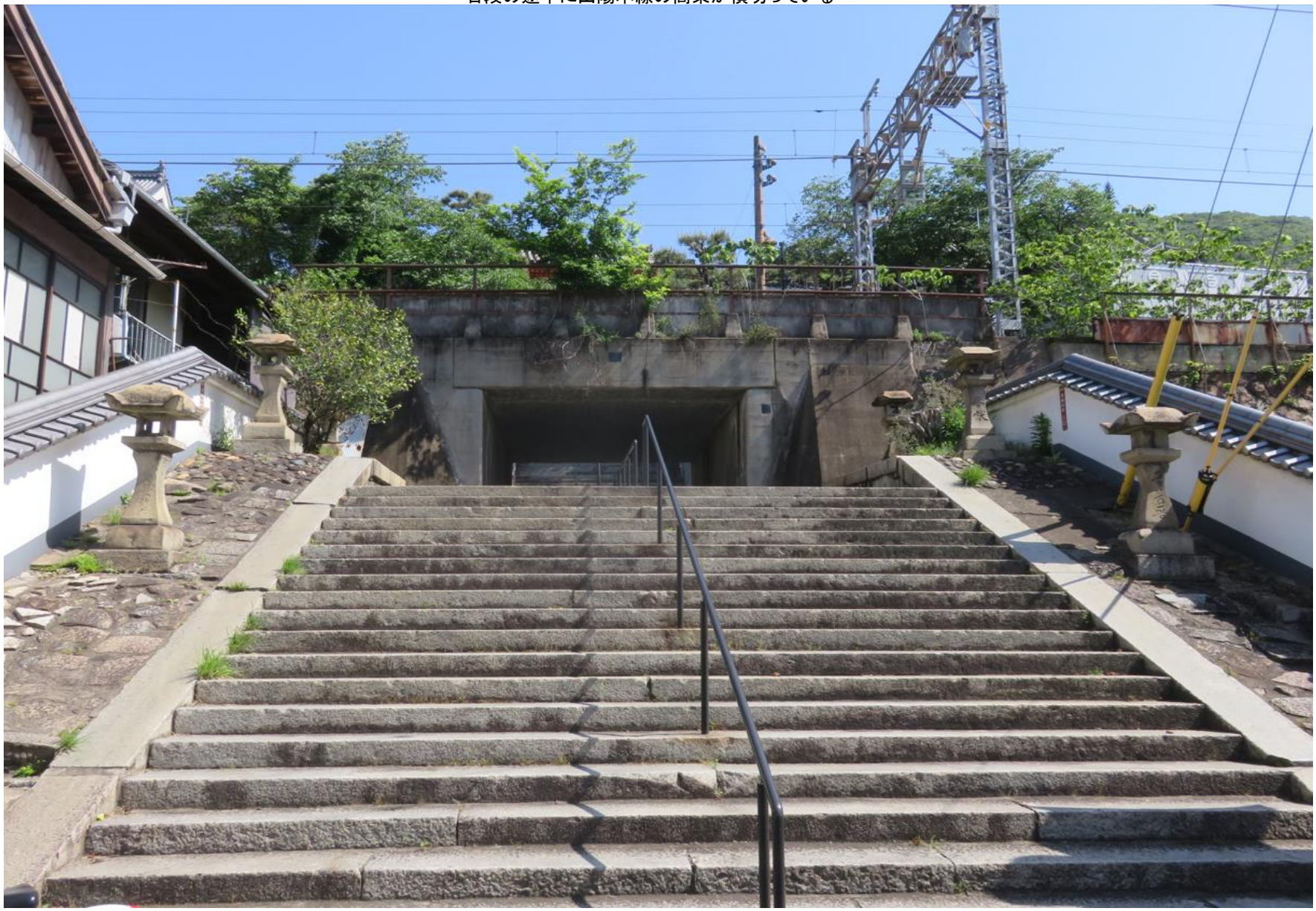
推古天皇24年（616年）、聖徳太子によって開かれたとされる/足利尊氏が九州平定や湊川の戦いの際、戦勝祈願をした寺としても有名/「本堂」、「多宝塔」は国宝

浄土寺（真言宗）

推古二十四年（六一六）聖徳太子の開基と伝える。
文治二年（一一八六）紀州高野山領大田荘の政所となり
後白河院の勅願所となった。
のち、荒廃したが、嘉元四年（一三〇六）奈良西大寺の律
定証上人によって伽藍が再整備され、西大寺長老信空上人
ら僧百余名を招き、盛大に落慶法要が行われた。
正中二年（一三二五）罹災したが、早々尾道の富豪道蓮道
性夫妻により、再々興の工が起こされ、嘉暦二年（一三二七）
本堂のち諸堂が相ついで整えられ、現在に至る。
建武三年（一三三六）足利尊氏は二度にわたり同寺に参
籠して戦運挽回を祈願し、三十三首法楽和歌（重文）を奉納
した。のち多くの荘園が寄進されるなど足利氏ゆかりの寺
として手厚い庇護を受け、備後の代表的大寺になった。
境内は、わが国の中世寺院建築を代表する本堂（国宝）、
多宝塔（国宝）をはじめ阿弥陀堂（重文）、山門（重文）などが
伽藍を広げる。
昭和六年（一九九四）重文「浄土寺（六棟）」が加わり、さら
に境内地全域が国宝本堂に追加指定された「国宝の寺」で
ある。身代わり観音として親しまれる本尊の秘仏十一面観
世音菩薩（重文）をはじめ、仏像、絵画、文書など多くの文化
財を伝えている。

主な文化財　重要文化財　絹本著色両界曼荼羅図
〃　〃　絹本著色仏涅槃図
〃　〃　木造聖徳太子立像（三
名勝　浄土寺庭園

石段の途中に山陽本線の高架が横切っている



山門が見えて来た

山門の向こうに本堂が見える

video

千
面
観
世
音
菩
薩

山門は重要文化財/鎌倉時代の再建（室町時代前期・南北朝の頃とも・・・）

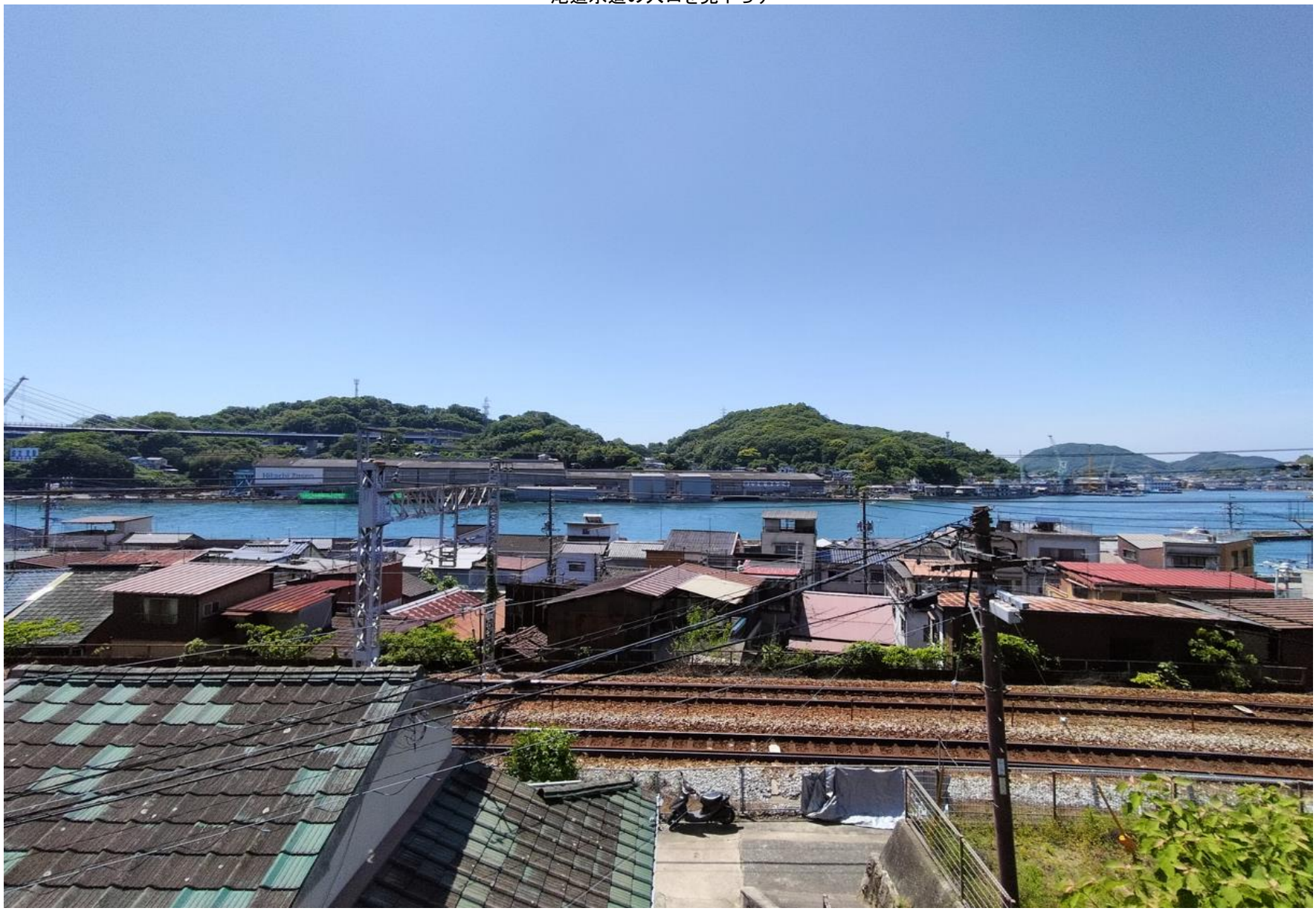
文化財愛護
浄土寺
山門
鎌倉時代

山門の左手

山門の右手

登って来た石段を見下ろしたところ/前方には瀬戸内の海が・・・

尾道水道の入口を見下ろす



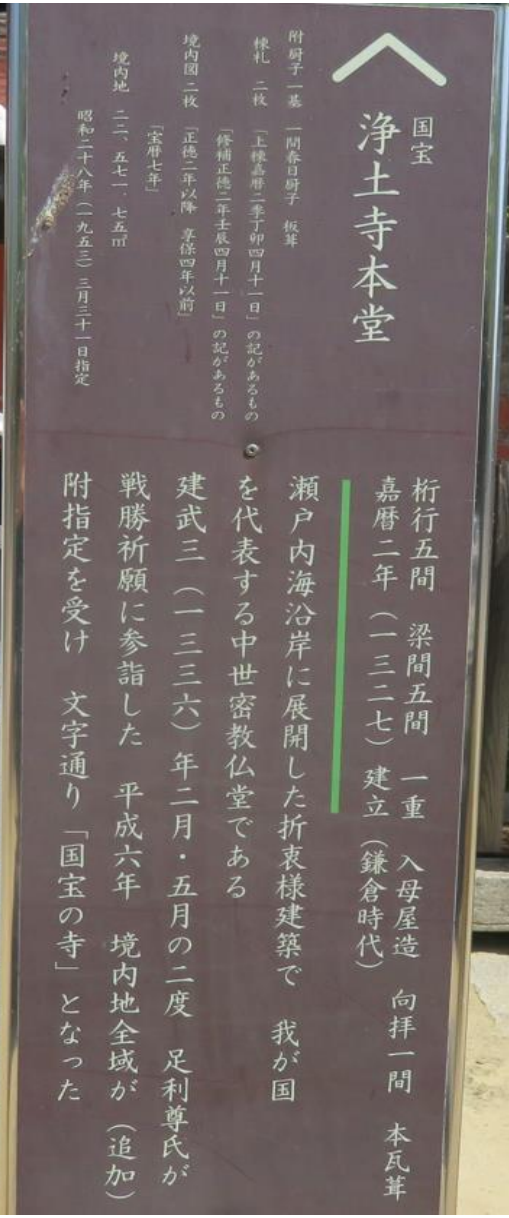
その左手/新尾道大橋が見える

video

さて、これが本堂/国宝/鎌倉時代後期、嘉暦2年(1327年)の再建

video

video

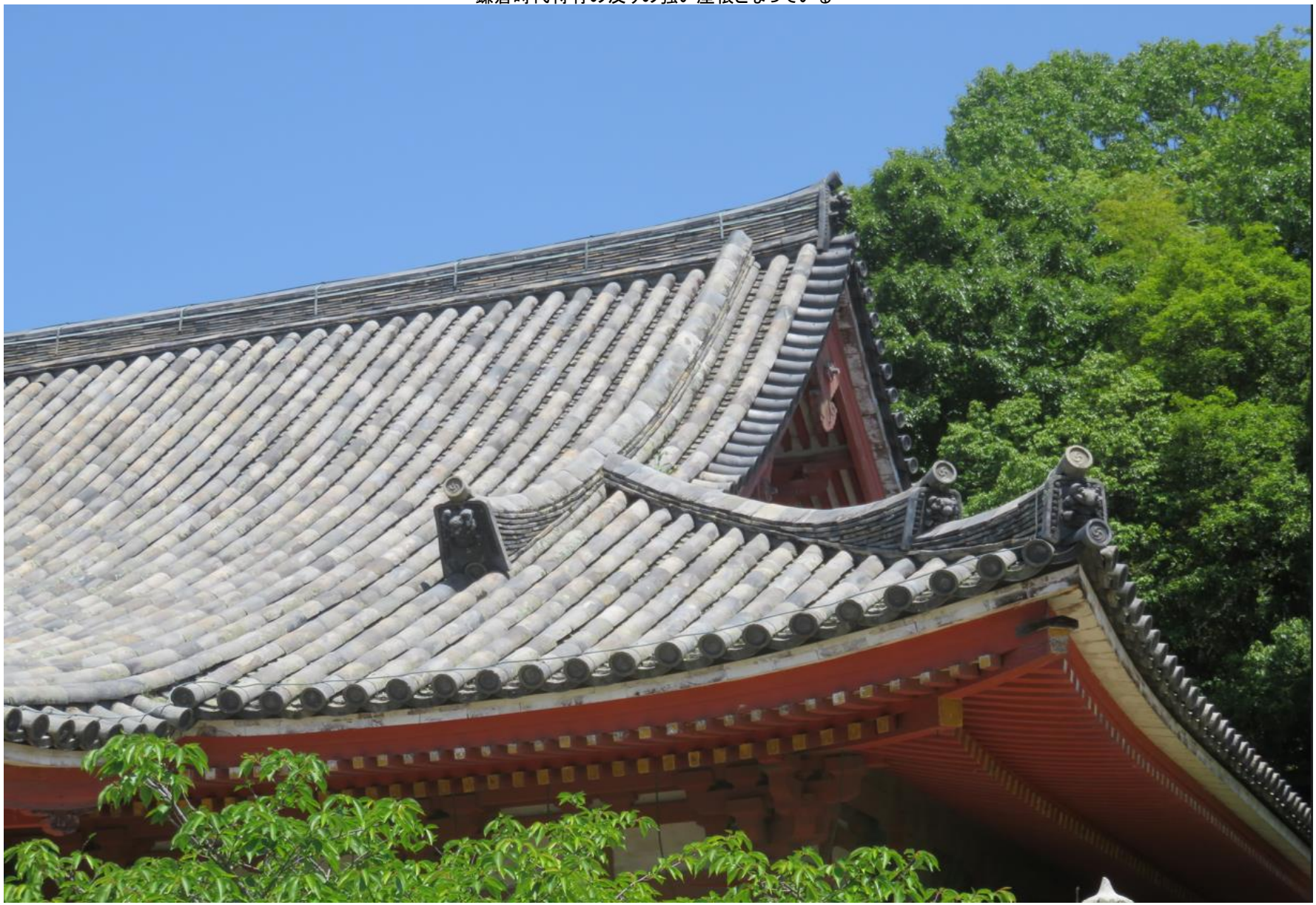

国宝
浄土寺本堂
附厨子一基　一間春日厨子　板葺
棟札　二枚　「上棟嘉暦二季丁卯四月十一日」の記があるもの
「修補正徳二年壬辰四月十一日」の記があるもの
境内図　二枚　「正徳二年以降　享保四年以前」
「宝帯七年」
境内地　二二、五七一・七五㎡
昭和二十八年（一九五三）三月三十一日指定
桁行五間　梁間五間　一重　入母屋造　向拝一間　本瓦葺
嘉暦二年（一三二七）建立（鎌倉時代）
瀬戸内海沿岸に展開した折衷様建築で　我が国
を代表する中世密教仏堂である
建武三（一三三六）年二月・五月の二度　足利尊氏が
戦勝祈願に参詣した　平成六年　境内地全域が（追加）
附指定を受け　文字通り「国宝の寺」となった

上製
鉛筆

日本古来の建築様式である和様を基調としながらも、鎌倉時代に宋から日本に伝来した禅宗様や大仏様を織り交ぜた、折衷様の仏堂 video

軒下の組物は出組で、中備は和様の間斗束の上に大仏様の双斗がのる/和様の長押ではなく貫で柱を固めている

鎌倉時代特有の反りの強い屋根となっている



video

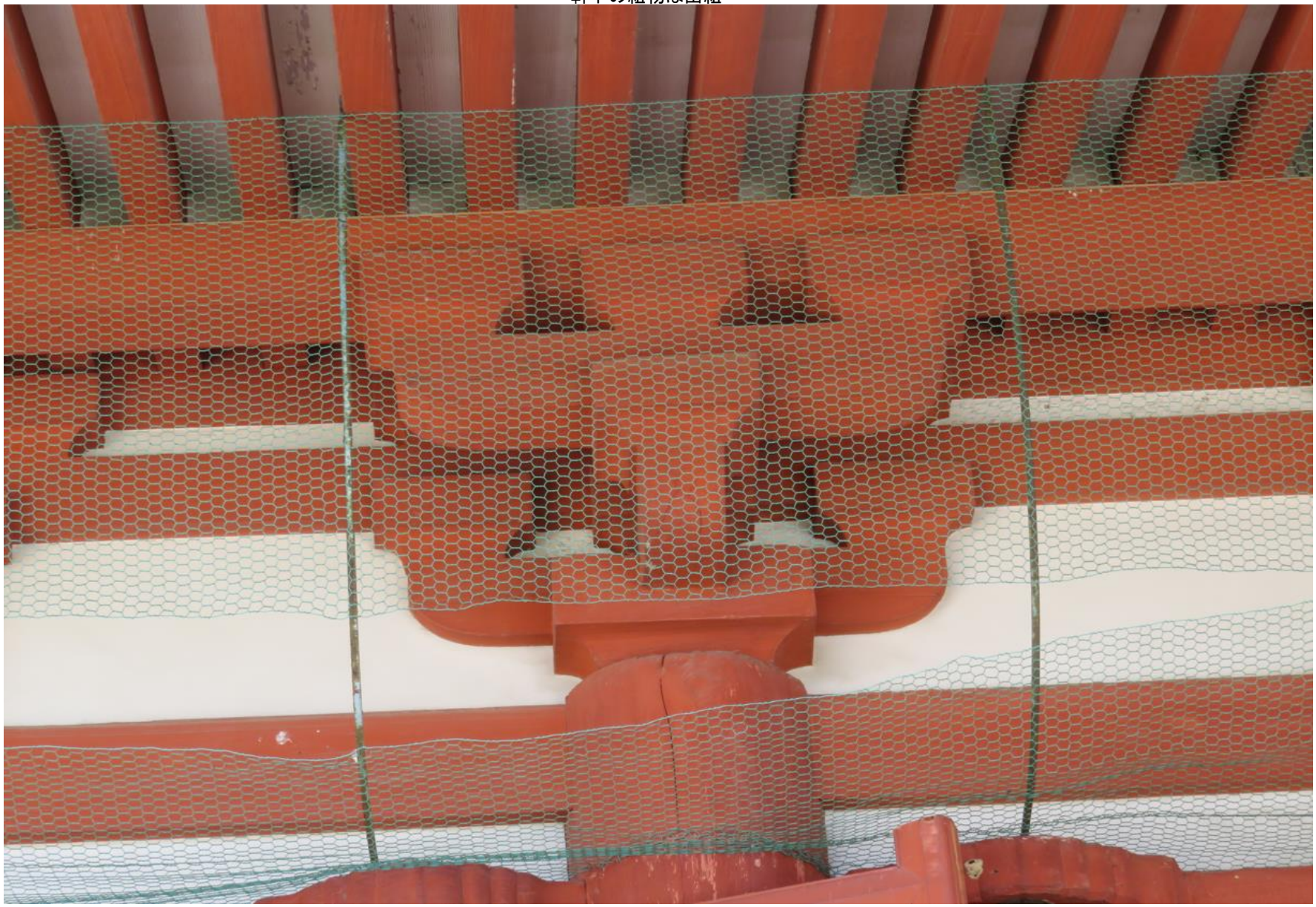
妻飾りは二重虹梁大瓶束

向拝部分を見たところ

突き出た頭貫は大仏様の繰型が付いた木鼻となっている

桟唐戸が並ぶ

軒下の組物は出組



中備は和様の間斗束の上に大仏様の双斗がのる

桟唐戸の藁座

向拝部分を見たところ/前方に多宝塔が見える

向拝の手挟は上部が遊離（隙間が空いている）しており、施されている繰型の形式などから、極めて古式の様相とされ、現存最古のものと考えられているようだ

向拝の蟇股

手挟の繰型を下から見たところ

手挟の上部が遊離（隙間が空いている）しているのが見て取れる/縋破風に鼻隠しが取り付く

鼻隠しを裏から見たところ

内部は中世密教仏堂のセオリー通り、内陣と外陣の間を格子戸と菱欄間によって仕切っており、仏の空間と俗の空間を厳密に区別している

菱欄間と中備の花肘木

外陣

天井は張らず、虹梁や垂木を見せている

本堂から見た多宝塔

多宝塔/国宝/本堂より僅かに遅れた鎌倉時代後期、元徳元年(1329年)の再建 video

文化財愛護
国宝
浄土寺
多宝塔
鎌倉時代(1329年)再建
火気厳禁
HITACHI
国宝
浄土寺多宝塔

石山寺や高野山金剛三昧院の多宝塔と並び、多宝塔を代表するものと云う

相輪の先端の宝珠、花輪も美しい

現存する中世多宝塔の中で最大級の規模で、その形状は下層の幅が広く、軒は低く、上にのる漆喰の亀腹も巨大で安定感があると云う

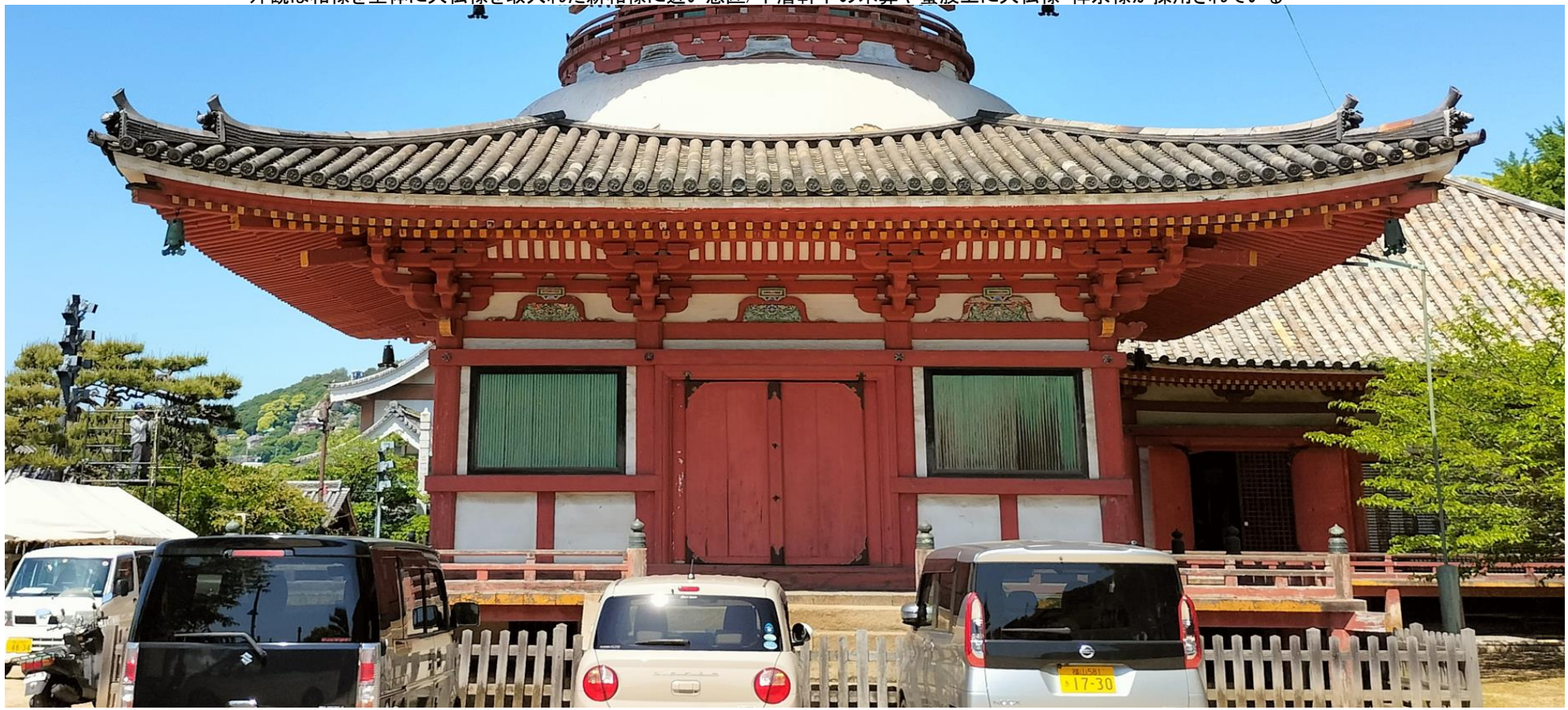
上層の組物は四手先で、尾垂木には繰型が施されており、尾垂木に絵様を付けるようになるのは近世以降の事であり、これはその先駆、最古例と云う

複雑な四手先の組物を持つ多宝塔の上層部/尾垂木の繰型が見て取れる/また、尾垂木の上に邪鬼がのって隅木を支えている

尾垂木の上の邪鬼

重量感・安定感のある亀腹

外観は和様を主体に大仏様を取入れた新和様に近い意匠/下層軒下の木鼻や蟇股上に大仏様・禅宗様が採用されている



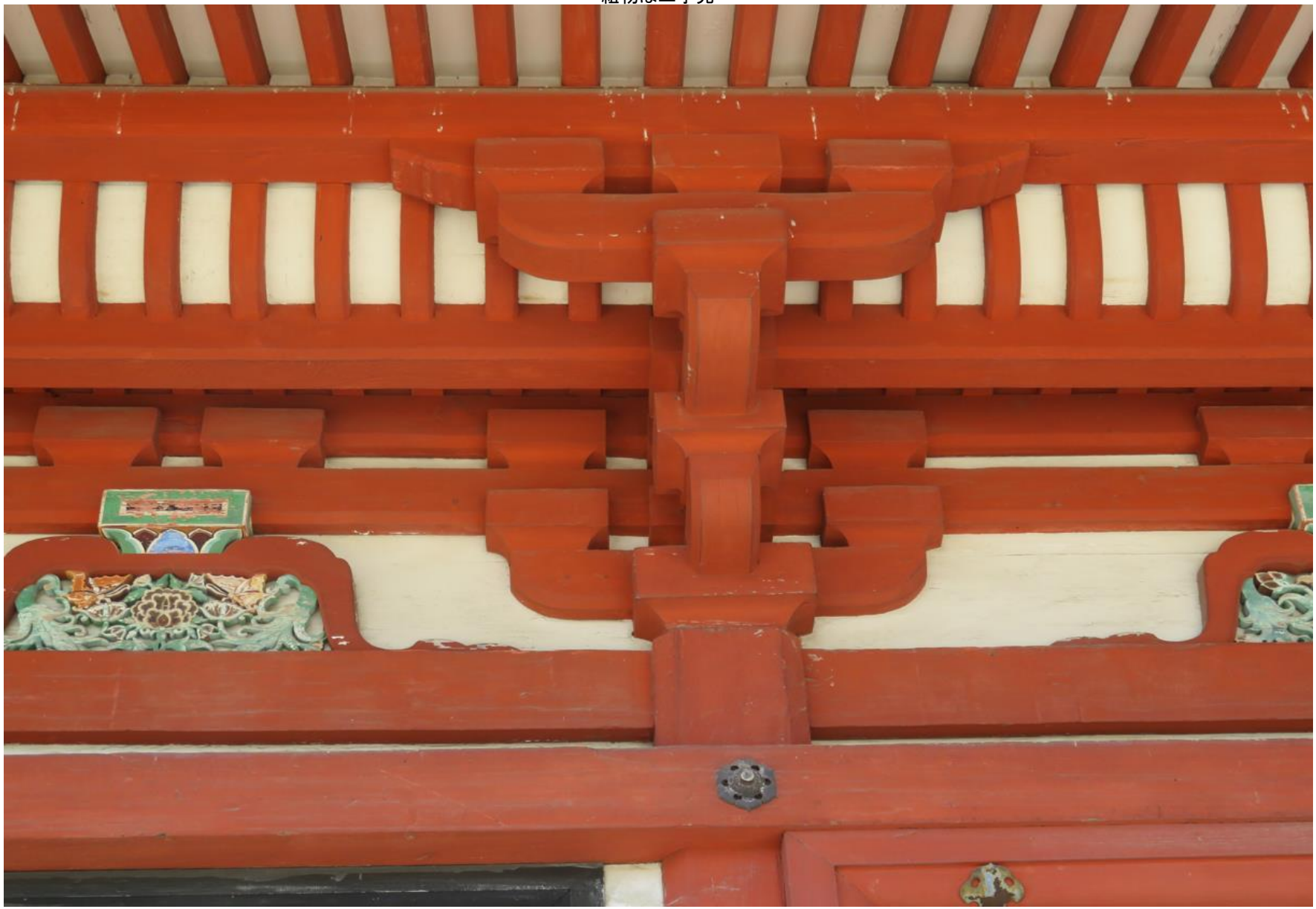
初重の組物は二手先/中備は蟇股/擬宝珠高欄を付した縁を巡らし、中央間板唐戸、脇間連子窓となっている video

鎌倉時代後期の特徴を見せる蟇股の上には、大仏様の双斗がのる

軒支輪が丸桁へと立ち上がる

木鼻は植物の文様をかたどった禅宗様

組物は二手先



蟇股の上には、大仏様の双斗がのる/向かって右手の蟇股は牡丹や唐草に蝶の透かし彫りが施されている

中央の蟇股は蓮台にのった法輪の左右に、宝相華唐草を配した、彩色透かし彫りの蟇股

向かって左手の蟇股

本堂と多宝塔との間にある阿弥陀堂/重要文化財/南北朝時代、貞和元年(1345年)の再建

文化財愛護
重要文化財
浄土寺
阿弥陀堂
1345年再建
火気厳禁
HITACHI

重要文化財
浄土寺阿弥陀堂
大正二年（一九一三）四月十四日指定
桁行五間　梁間四間　寄棟造　本瓦葺
康永四年（貞和元・一三四五）の再建（南北朝時代）
再建以前の本堂で　現本堂と「並び堂」として当寺
の中心的役割を担ってきた　洗練された和様建築の
優作で　内部は一間通りの下陣　両脇陣　折上小組
天井三間四方の内陣からなり　須弥壇上に阿弥陀三
尊像を安置する
P16-353
P16-353

純粋な和様建築で、前面は蔀戸が連続している

video

組物は出三斗、中備は花肘木

video

少し時間が経ってから見ると、蔀戸が吊り上げられていて、内部が良く見えた

video

吊り上げられた蔀戸を見たところ/側面は板唐戸と細かく横桟を入れた舞良戸となっている

video

椅子が並べられているのは、尾道薪能を行うためのようだ

さて、これは方丈（重要文化財/元禄3年（1690年）の建造）への入口の唐門/重要文化財/正徳2年（1712年）の建造

庫裏/重要文化財/享保4年（1719年）の建造/この右手に客殿（庫裏と同様）がある/この他、宝庫・裏門・露滴庵が重要文化財となっている

左手の宝篋印塔（貞和4年（1348年）の銘あり）と、右手の納経塔（石造宝塔/弘安元年（1278年）の銘あり）はともに重要文化財

重要文化財

浄土寺納経塔　一基

昭二十八年(一九五三)八月二十九日指定

宝塔　基壇付　高さ二・七m

建長七年(一二七八)戊寅十月十四日　の刻銘がある

尾道最古の石造物　定証上人による浄土寺再興名をもつ

同寺を修造した尾道の長老光阿弥陀仏のために　子息光阿吉近が建てた供養塔と伝える

「光阿弥陀」「孝子光阿吉近敬白　大工形部安光」などの文字をよむことができた

重要文化財

浄土寺宝篋印塔　一基

昭二十八年(一九五三)八月二十九日指定

造宝篋印塔　高さ三・二m

応永十年(一三四八)戊子十月一日　の刻銘がある

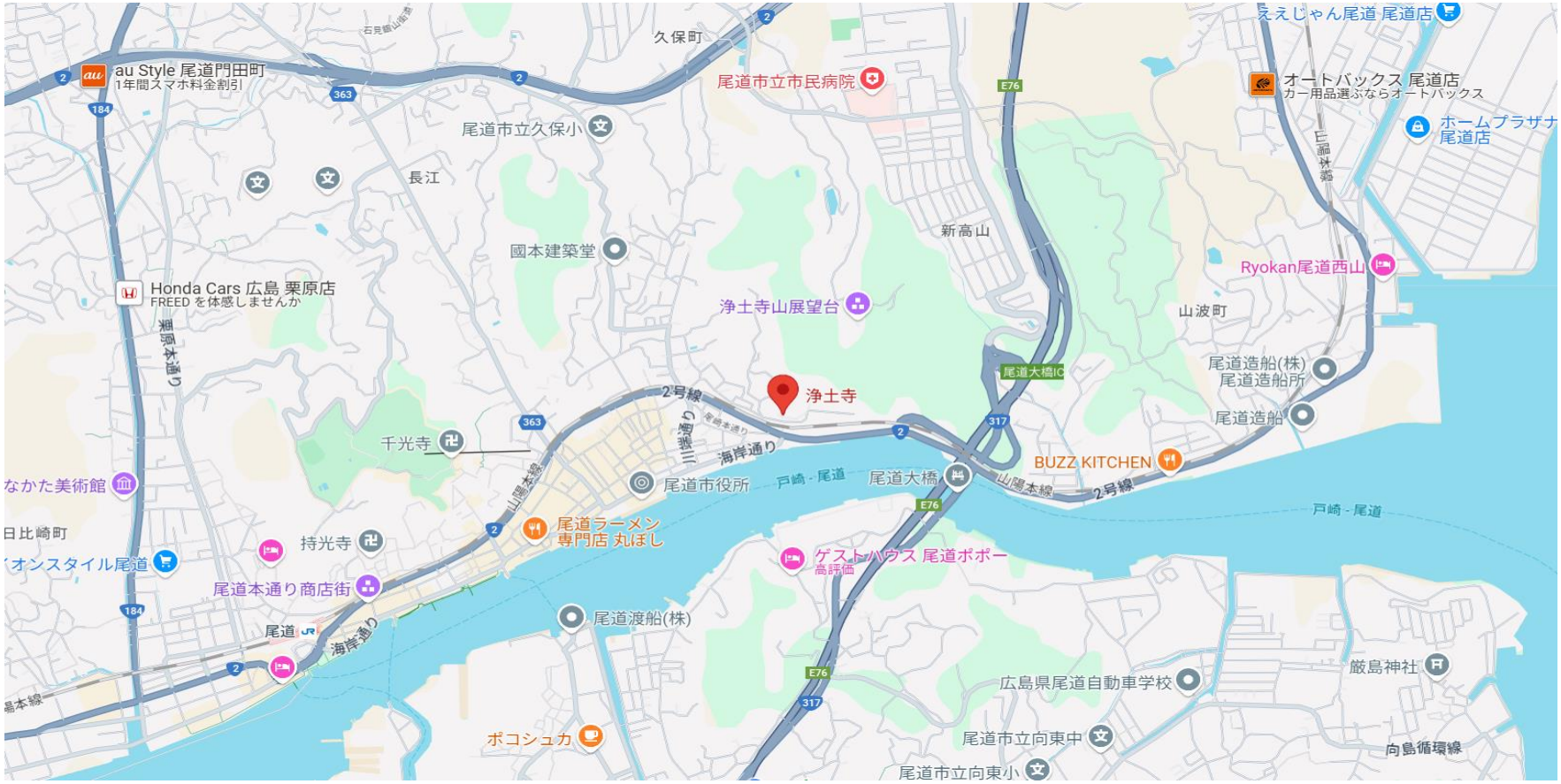
備前など四名の逆修塔で光孝の追善のために建立された

備南地方を代表する宝篋印塔　基礎と塔身の間に方形台を入れる地方の特色をとどめる

尾道市教育委員会・尾道文化財協会

宝篋印塔

納経塔（石造宝塔）


au Style 尾道門田町
1年間スマホ料金割引
久保町
尾道市立市民病院
えぇじゃん尾道 尾道店
オートバックス 尾道店
カー用品選ぶならオートバックス
ホームプラザナ
尾道店
尾道市立久保小
長江
新高山
國本建築堂
Honda Cars 広島 栗原店
FREED を体感しませんか
Ryokan尾道西山
浄土寺山展望台
山波町
尾道造船(株)
尾道造船所
尾道造船
浄土寺
2号線
千光寺
海岸通り
尾道市役所
尾道大橋
BUZZ KITCHEN
なかた美術館
戸崎 - 尾道
山陽本線
日比崎町
持光寺
尾道ラーメン
専門店 丸ぼし
ゲストハウス 尾道ポポー
高評価
オンスタイル尾道
尾道本通り商店街
尾道渡船(株)
尾道
厳島神社
広島県尾道自動車学校
ポコシュカ
尾道市立向東中
尾道市立向東小
向島循環線